

現在発生中のエルニーニョ現象と過去のエルニーニョ現象の比較

～2015 年 8 月のエルニーニョ監視海域の海面水温は
8 月としては 1950 年以降で 2 番目の高温～

現在発生中のエルニーニョ現象について、「エルニーニョ監視海域(南緯 5 度～北緯 5 度, 西経 150 度～西経 90 度)における月平均海面水温の基準値*との差」(以下、監視海域の月平均海面水温差)の時間変化を、過去のエルニーニョ現象と比較しました(図)。1950 年以降に発生したエルニーニョ現象の中で、監視海域の月平均海面水温差が大きかったのは、1997/98 年(赤:最大+3.6)、1982/83 年(青:最大+3.3)、1972/73 年(橙:最大+2.7)に発生した現象でした。2015 年 8 月の監視海域の海面水温差は+2.2(黒線)で、8 月としては 1997 年以来最大で、1950 年以降で 2 番目に大きい値でした。今後のエルニーニョ現象の見通しについては、エルニーニョ監視速報をご覧ください。エルニーニョ予測モデルによる監視海域の月平均海面水温差の予測値は、エルニーニョ監視速報の図 9 に掲載されています。

*基準値:前年までの 30 年間の月平均値

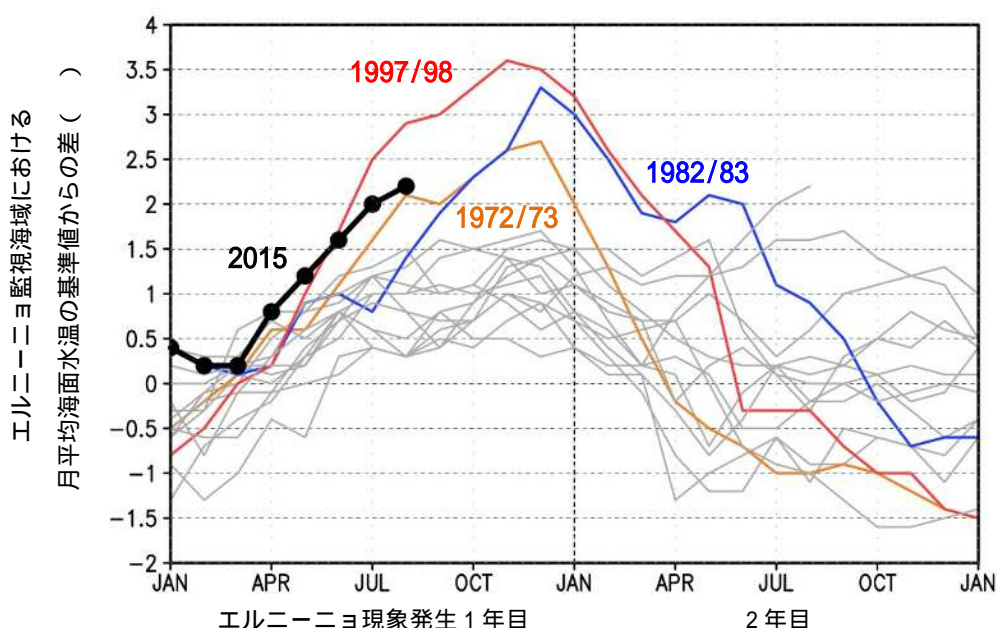


図 1950 年以降に発生したエルニーニョ現象(15 回)における「エルニーニョ監視海域における月平均海面水温の基準値との差」の時間変化 黒:2015 年、赤:1997/98 年、青:1982/83 年、橙:1972/73 年、灰:その他のエルニーニョ現象。2015 年はエルニーニョ現象発生 2 年目ですが、比較のために発生 1 年目として記載しています。

2015 年夏（6～8 月）の天候へのエルニーニョ現象の影響

世界の天候（図1及び図2）: 2015年6～8月の（北半球の）夏に見られた世界の天候の特徴のうち、西アフリカ、インド西部、東南アジア、南米北部の高温、中国南東部～西日本、ニュージーランド～ポリネシアの低温、ミクロネシアの多雨、ヨーロッパ東部、カリブ海付近の少雨には、エルニーニョ現象が影響したと考えられます。

日本の天候: 西日本では、太平洋側を中心に南から湿った気流が入りやすかったため、降水量が多く、日照時間が少なくなり、冷夏となりました。これは、日本の西で偏西風が平年より南よりで、太平洋高気圧の西日本への張り出しが弱かったことによるもので、エルニーニョ現象の発生によってフィリピン付近で積乱雲の発生が平年より弱くなったことが影響したと考えられます。日本の夏の天候の詳細については、平成27年9月1日報道発表資料「夏（6～8月）の天候」をご覧ください。

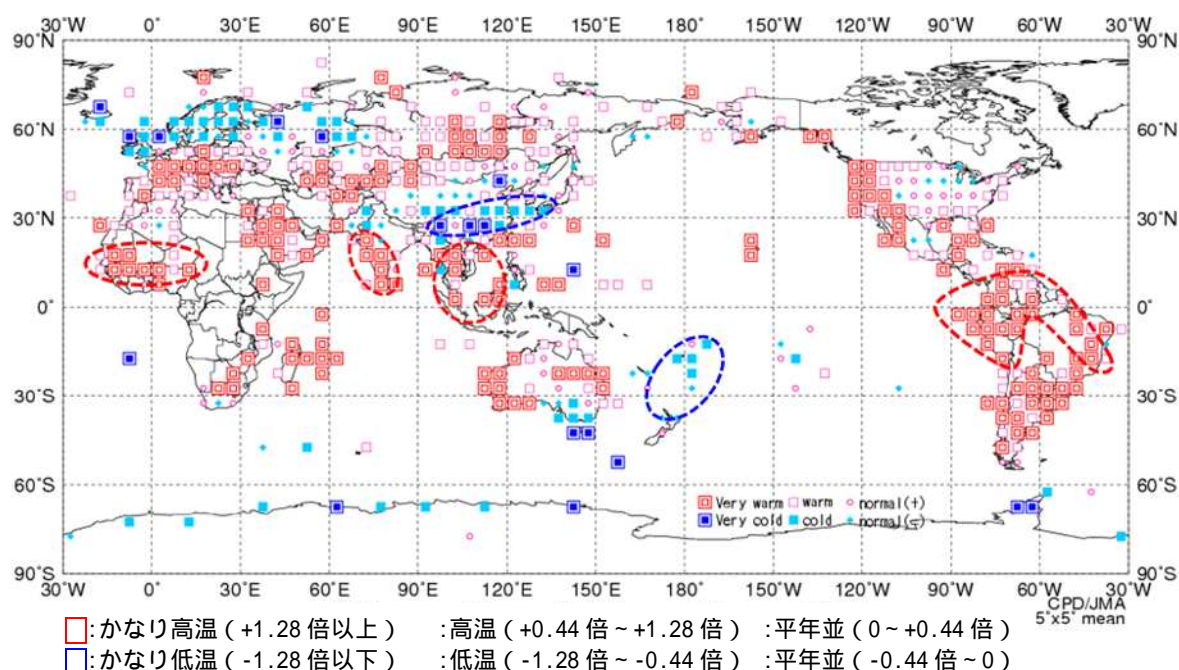


図1 2015年夏に観測された平均気温の特徴（平均気温規格化偏差）

気温の年々の変動の大きさは場所によって異なるため、2つの場所の気温の平年差の大きさが同じであったとしても、その気温の「現れやすさ」も同じであるとは限りません。このため、統計的手法を用いて、気温の平年差の「現れやすさ」の程度を示しています。「高温」「低温」のマークは、3～10年に1回程度現れるような高温・低温であったことを、「かなり高温」「かなり低温」のマークは10年に1回程度よりも顕著な高温・低温を表しています。

エルニーニョ現象の影響があったと考えられる高温の領域を赤破線で、低温の領域を青破線で囲んでいます。

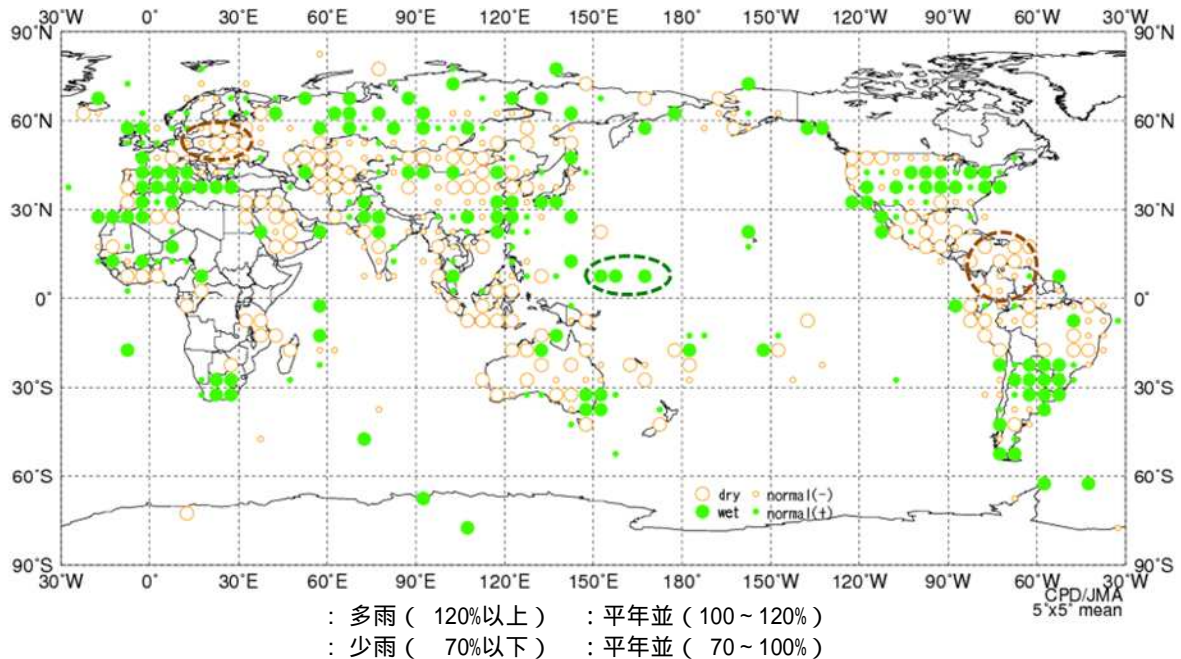


図2 2015年夏に観測された降水量の特徴（降水量平年比）

2015年夏の降水量について、平年の70%以下を「少雨」、70%から120%までを「平年並」、120%以上を「多雨」と表現しています。

エルニーニョ現象の影響があったと考えられる多雨の領域を緑破線で、少雨の領域を茶破線で囲んでいます。

図1及び図2は、9月9日までに世界各国の気象機関から通報された6～8月の観測データを元に気象庁にて作成したものです。これらの図に関連する詳細な情報は、気象庁ホームページ「世界の天候」(<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/index.html>、毎月14日頃に前月の情報を追加して更新します)からご覧いただけます。